

第 13 回 長野市中心市街地活性化基本計画評価専門委員会 議事録

日時 平成 24 年 5 月 22 日(火)

午前 10 時から

場所 第一庁舎 8 階 第二委員会室

【出席者】

	氏 名
委員 (7 名)	市川浩一郎委員、金澤玲子委員、越原照夫委員、渡辺晃司委員、 石川利江委員、樋口敦子委員、高木直樹委員
事務局 (5 名)	原田都市整備部長、轟まちづくり推進課長、 小田切中心市街地活性化対策室長、小林係長、小林主査

1. 開会
2. 都市整備部長あいさつ
3. 委員長あいさつ
4. 事務局紹介
5. 議事

(1) 平成 23 年度の事業実績報告について

<資料1> (説明者:事務局)

(委員)

- ・ ぱていお大門の利用者数に、ぶらっと立ち寄った人は入っているのか。

(事務局)

- ・ 通過の人は入っていない。レジを通過した買物客の数字である。

(委員)

- ・ ぱていお大門は観光客より地元の客のほうが多いのか。

(事務局)

- ・ 約 4 割が観光客である。

(2) 第一期基本計画のフォローアップについて

<資料2> (説明者:事務局)

(委員)

- ・ 9 ページの「住みたくなるまち」について、長野市の人口が減少している中、中心市街地の人口は維持されていることは健闘していると言えるのではないか。

(事務局)

- ・ 目標を達成できなかったが、中心市街地の人口と全体人口を比較すると、中心市街地の人口割合は増えているので、二期計画では目標を変更した。

(委員)

- ・ 3 ページの目標 2「住みたくなるまち」に関するアンケート結果について、

「安心、安全で住みやすいまち」が51.5%と評価が高いのに、「住みたい・住み続けたいまち」が-63.3% になっている。どうして「住みたい・住み続けたいまち」じゃないかという検証をする必要があるのではないか。検証しない限りは、多額のお金を投入する意味が無くなってしまわないか。

(委員)

- ・ 2つの関連性がわからない。

(事務局)

- ・ アンケート調査の対象者のうち中心市街地の住民を4分の1、郊外の住民を4分の3としたので、郊外の住民が「住みたいと思わない」と回答したのかもしれない。

(委員)

- ・ アンケートは大変怖くて、どういうふうアンケートを取るかを、きちんと考えてやらないと、極端に言うと、どうにでも誘導出来てしまう。アンケートの結果で、まちづくりの方向性をと考えているなら、シンクタンク等然るべきところと相談してやっていかないと、大変危険だ。

(事務局)

- ・ アンケートの取り方に一部、不手際があるかと思う。今後、実施する際、参考にしたい。

(委員)

- ・ 中心市街地の住民の「住みたい・住み続けたいまち」のアンケートを別添で付けると、相当数字は良くなると思う。

(委員)

- ・ 4つの目標の中で、今後力を入れなくてはいけないのは、数字的にみると、「歩きたくなるまち」だと思う。道路整備と共に「商業施設をどうするのか」とか「回遊性をどうしていくのか」とかを考えた時に、トイゴが商業施設として、非常に停滞感を感じる。『トイゴ』をこれからどうしていくのかは、中心市街地の問題の中で、かなり大きい位置を占めるのではないか。

(委員)

- ・ 確かに、トイゴの2階がとても寂しい。一番の中心地に、何か市のサービスを提供する場所があると便利だと思う。

(委員)

- ・ 行政だけが入ってもいけない。銀座の商店街とトイゴのオーナーと、それに市が加わる。地元と地元の商店街が、まず動かなければ、市は動けない。

(委員)

- ・ 銀座の商店街の皆さんと一階のテナントの皆さんとが、連携しながら出来るだけいいイベントを繰り返さないと、賑わいをもっと落ちる可能性

がある。

(3) 第二期基本計画の認定について

＜資料3＞（説明者：事務局）

（委員）

- ・ セントラルスクエア整備事業は、県庁緑町線を意識して整合性を図ってもらいたい。

（事務局）

- ・ 中央通りにおいて、歩行者優先道路化事業を進めているが、大型車等の車両の通行はなるべく遠慮していただきたい。となれば、当然セントラルスクエアの活用について、県庁緑町線からのアクセスがなくては、利用出来ないと思っているので、決して分離して考えるものではなくて、一緒にして考える、まちづくり一帯として考えていくということで、それは当然念頭に置いて仕事してまいりたい。

（委員）

- ・ 目標②「住みたくなるまち」の数値目標をパーセントに替えることは理解するが、23年度と比べて28年度の長野市の中心市街地の人口は増えるのか。

（事務局）

- ・ 増える。

（委員）

- ・ 増えるということは、今住んでいる人達に対して、「そこから居なくならないで」と言うだけではダメで、そこに人を呼ぶことを意識しなければいけない。高齢化の問題もあり、当然少し人口は減る要素もあるので、人口が2.5%に増えるということだけが目標ではなくて、その中で例えば若者、或いは子供の数、15歳未満の子供の数を、「今、何人だが、何人ぐらいにしよう」という目標は、別途、持っていた方がいいと考える。

（委員）

- ・ 中央通りを歩行者優先にして、ベンチを置いたりして景観をアップさせている中に、車中心の昭和通りがあって、少し行った所に、またそういう道路の県庁緑町線が出来て、大門にもあるというのが、中心市街地の活性化とか、長野市門前まちとしてのイメージを考えると、かなり慎重に考えるべきではないか。車で長野市を通り抜ける人達にとっては、とても便利かもしれないが、中心市街地で買い物をするとか、外から来た観光客が、この街の良さを味わっていただくこととは、反するような気がする。市としても慎重に市民の意見なども聞いていただきたい。

（事務局）

- ・ ご意見として承る。

6. 事務連絡

7. 閉会